

Weekly コラム

令和6年1月30日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

日本は世界3位の地熱資源国

今、話題として日本の地熱発電が大きな可能性があると巷でピックアップされているのはご存知でしょうか。日本の地熱資源量は米国、インドネシアに次いで3番目に多いと言われています。

発電量は0.5ギガワットで、日本が技術的に利用可能な量は1.5%しか活用されていないとのことで、30年までに1.5ギガワットの地熱発電できるように目標を掲げているそうです。そもそも地熱発電の仕組みとして地表から深さ30～50キロメートルの場所で1,000℃程度あると考えられています。

岩が熱で溶けてたまっているのが、「マグマだまり」と言われており、そこをエネルギー源とするそうです。化石燃料のように消費して尽きることがなく、地下にある地熱エネルギーの蒸気や熱を利用するため、長期間にわたって供給できるそうです。

そして昼夜問わず安定した発電が可能になるため、太陽光発電や風力発電のように日照時間や風の有無によって左右されるリスクがないそうです。設備容量で見ると、日本は8位だそうです。背景には発電設備を作るための調査や開発に莫大な時間とコストがかかるそうです。

また開発に適した場所には温泉地だったり、国立公園といった開発の制限が課せられるケースが多いこともあげられるそうです。とはいえ、地熱発電には期待が大きいとされています。そんな地熱発電に携わっている会社を知っておくのも面白いかもしれません。

三菱重工業、東芝、J-POWER、レノバ、鉦研工業、電業社機械製作所、INPEX、富士電機、三菱日立パワーシステムズは代表的な銘柄群です。地熱発電の心臓部といえる地熱発電用タービンの開発している会社は東芝、富士電機、三菱日立パワーシステムズが世界の7割近くのシェアを占めているそうです。

火山や地熱地域の分布から東北と九州に集中していますが、日本全国から発電できるように期待して資源国の仲間入りし、国際競争力を高めて安定供給を維持して欲しいと思います。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。